

天沼小だより



敬老の日を迎えて

9月20日(月)は“敬老の日”で学校はお休みです。敬老の日は、長い間働き、社会のために尽くしてこられたお年寄りを敬い、その長寿(長生き)を祝うための日です。

医学の進歩の成果でしょうか、日本人の平均寿命は伸び、2021年7月時点で、男性が81.64歳、女性が87.74歳だそうです。日本社会の高齢化が進んでいるという話題をよく耳にします。



この高齢化という言葉は、高齢化社会、高齢社会、超高齢社会という3つを使い分けるそうです。0～14歳を年少人口、15～64歳を生産年齢人口、65歳以上を高齢者人口としたとき、総人口に占める高齢者人口の占める割合が7%以上であると高齢化社会、14%以上であると高齢社会、21%以上となると超高齢社会と呼ぶのだそうです。2018年時点で日本人の高齢者人口比は28.1%ですので、日本は紛れもなく超高齢社会ということになります。

「高齢者を待遇する仕方は、その国民の品性を示す指標であると同時に、文明の程度を示す指標である」という表現を目にしたことがあります。私たち日本の社会はどうでしょうか。日本は品性のある国なのでしょうか。文明の先進国なのでしょうか。

お年寄りを大切するといっても、その方法は様々だと思います。日本では、子どもや孫との同居生活を望むお年寄りの割合が高いのに対して、世界で最もお年寄りが暮らしやすい国とされているスウェーデンでは、老後は子どもや孫と時折会える距離を保ちつつ、医療や福祉サービスの充実した施設で暮らしたいと考えるお年寄りの割合が高いのだそうです。国が違えば、暮らし方や価値観も異なります。気持ちの表し方、伝え方も違って来でしょう。大切なのは、その思いが相手に確かに伝わっているかどうかだと思います。

こんな話を聞いたことがあります。90歳を過ぎて寝たきりのおばあちゃんがいて、その枕元にベルが二つ用意されています。一つは用事のあるときに家族を呼ぶためのもの。もう一つは何のためのものでしょうか。それは中学2年生の孫娘の部屋に通じているものでした。このベルで毎朝6時に孫娘を起こすのです。すると、目覚めたお孫さんは、真っ先におばあちゃんのところへ行き「おはようございます」と声をかけます。そして犬の散歩に出かけます。学校から帰ると、お孫さんはおばあちゃんのところへ行き、「ただいま」と挨拶し、学校での出来事を報告し、今日何かニュースがあったかを聞くのだそうです。おばあちゃんはテレビで見たニュースのことや、芸能界の出来事などを話してくれるのです。

「私は寝ていても、まだまだ用事がある体です。孫を起こしたり、ニュースを家族に伝えたりしなくてはなりません。」おばあちゃんは、訪ねてくる人にそう話すのだそうです。この、「自分はまだまだ家族の役に立っている」という自信が、おばあちゃんの生きる力の源になっているのだと思います。このご家族には温かい愛を感じますね。「あなたは大切な、かけがいのない人ですよ」と、お互いに認め合う気持ちが大切なのだと思います。

普段一緒に暮らしていても、遠くに離れて暮らしていても、おじいちゃん、おばあちゃんに、「まだまだ頼りにしているよ」と伝えてみてはいかがでしょうか。

今は電話も、メールもあります。あまり書かなくなった手紙もいいかもしれません。手描きのイラストを添えたら、きっと大喜びなさるでしょう。